

郊外部住民の生活満足度の要因分析 —千葉県船橋市を対象として—

Analysis on factors of life satisfaction of residents in suburbs of Funabashi City, Chiba Prefecture, Japan

佐藤徹治研究室 1274023 長屋 潤

1. 背景・目的

都市郊外部では、1960～70年代にかけて日本住宅公団（現在の都市再生機構）等により多くの住宅団地が建設されたが、これらの団地では、近年、施設の老朽化や住民の高齢化・減少が目立つ。住民の高齢化・減少は、都市郊外部の戸建て住宅地でも地域によっては顕著となっている。一部の地域では、住民の減少により、商業施設の撤退やバス路線の統廃合が行われ、これが住民の流出に拍車を掛ける結果を招いている。

以上の諸課題に対処する地域政策を検討するため、本研究では生活満足度に着目する。本研究では、生活満足度の要因を分析可能な生活満足度評価モデルを提案し、千葉県船橋市郊外部の住宅団地（分譲、賃貸）と戸建て地区を対象に、実証分析を行う。さらに、各地区での住民の生活満足度を考慮した地域政策を検討し、地域政策による生活満足度の向上の程度について、シミュレーションによる感度分析を行う。

2. 生活満足度の定義と生活満足度評価モデル

2.1 生活満足度の定義

生活満足度は、経済学における個人の効用 (Utility) の概念に近い。効用は、一般的に消費額、余暇時間、その他の環境の関数である。また、WHO は、住環境の4理念として利便性、快適性、安全性、保健性を挙げている。さらに、本研究では近年人々のつながり等が新しい住環境として重視されていることから交流の視点を加える。なお、保健性は、日本の場合は衛生水準が高く分散が小さいと考えられるため視点から除外する。

以上から、本研究では生活満足度を経済性、利便性、快適性、交流・余暇、安全・安心の各視点から定義づける。

2.2 生活満足度の説明要因

ここでは、生活満足度の説明要因について、既存研究を参考に、経済性、利便性、快適性、交流・余暇、安全・安心の各視点から検討する。

経済性の満足度については、白石ら(2006)は、個人の所得が増加すると、幸福度を高める傾向があるが、所得の上昇とともに期待の上昇あるいは適応が生ずることにより一定の所得額を超えると、幸福度は下がる傾向にあると述べている。また、一般的な効用関数の説明変数には消費支出が含まれている。本研究では経済性の視点からの説明指標を、1ヶ月あたりの生活費、不動産・耐久消費財・旅行への年間支出とする。

利便性の満足度については、日常生活で利用する各種施設までの近接性と移動手段の有無が大きく関連してい

ると考えられる。佐々木ら(2012)¹⁾は、立派な自動車道路があっても自家用車を持っていない人はその道路を利用できず、その人たちの道路交通による機能は皆無に等しいと述べている。本研究では利便性の視点からの説明指標を、日常施設および非日常施設までの所要時間、自家用車の保有の有無とする。

快適性の満足度については、平日の1日平均自宅滞在時間は15時間程度、高齢者や主婦は20時間となっている(NHK国民生活時間調査)ことから、自宅の居住環境と自宅周辺環境が重要であると思われる。本研究では快適性の視点からの説明指標を、延べ床面積、敷地面積、および家からの眺め、日当たり、静けさ、空気のきれいさ、飲料水道水のきれいさ、公園や緑地、水辺に対する満足度とする。

交流・余暇の満足度については、内閣府(2011)がサポートしてくれる人の存在の有無が幸福度に影響すること、困った時に相談できる人がいることが幸福度を上げることを指摘している。また、松島ら(2011)は個々の嗜好や程度に合えば、余暇時間の増加が主観的QOL向上に有効であると述べている。また、北川(2010)²⁾は家族、組織、国家への共同体精神を持つことが幸福感を向上させるという検証結果を得ている。一方、近年、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を用いてのコミュニケーションが普及しているが、対面での対話とSNSでの対話では生活満足度に及ぼす影響は異なると思われる。本研究では交流・余暇の視点からの説明指標を、友人・知人との対面での交流(立ち話・自宅訪問・外出等)の頻度、友人・知人とのメール・SNS等を通じた交流の頻度、家族との交流(対面・メール・SNS等)の頻度、心配事や悩み事を相談できる相手の有無、1日に自分の好きなことに費やせる時間(平日・休日)とする。

安全・安心の満足度については、火災や緊急医療に対する安全性・安心度を考慮すると、消防、病院・診療所までの所要時間が重要である。しかし、同一地区におけるこれらの施設への所要時間は同程度と考えられるため、本研究では安全・安心の説明要因は検討しない。

表-1に、生活満足度の各視点からの説明指標を示す。

2.3 生活満足度評価モデル

生活満足度評価モデルとして、総合満足度の説明変数は各視点の満足度で説明され、各視点の満足度を各視点の説明指標で説明する2段階構造を検討する。なお、各視点の満足度には年齢や性別等の個人属性が影響することから、説明指標には各種個人属性を加える。

(1)～(5)式に、生活満足度評価モデルを示す。

表-1 各視点の説明指標

視点	説明指標
経済性	<ul style="list-style-type: none"> 1ヶ月あたりの生活費 不動産、耐久消費財、旅行への年間支出
利便性	<ul style="list-style-type: none"> 日常施設までの所要時間 非日常施設までの所要時間 自分で運転する自家用車の有無 いつでも利用できる自家用車の有無
快適性	<ul style="list-style-type: none"> 延べ床面積、敷地面積 家からの眺め、日当たり、静けさ、空気のきれいさ、飲料水道水のきれいさ、公園や緑地、水辺に対する満足度
交流・余暇	<ul style="list-style-type: none"> 友人・知人との対面での交流(立ち話・自宅訪問・外出等)の頻度 友人・知人とのメール・SNS等を通じた交流の頻度 家族との交流(対面・メール・SNS等)の頻度 心配事や悩み事を相談できる相手 1日に自分の好きなことに費やせる時間(平日・休日)

$$S^i = \alpha^i + \beta_e^i S_e^i + \beta_c^i S_c^i + \beta_f^i S_f^i + \beta_m^i S_m^i + \beta_s^i S_s^i \quad (1)$$

$$S_e^i = \alpha_e^i + \sum_k \beta_{e,k}^i x_{e,k}^i + \sum_j \gamma_j^i z_j^i \quad (2)$$

$$S_c^i = \alpha_c^i + \sum_k \beta_{c,k}^i x_{c,k}^i + \sum_j \gamma_j^i z_j^i \quad (3)$$

$$S_f^i = \alpha_f^i + \sum_k \beta_{f,k}^i x_{f,k}^i + \sum_j \gamma_j^i z_j^i \quad (4)$$

$$S_m^i = \alpha_m^i + \sum_k \beta_{m,k}^i x_{m,k}^i + \sum_j \gamma_j^i z_j^i \quad (5)$$

ここで、 i は地区を示す。 S 、 S_e 、 S_c 、 S_f 、 S_m 、 S_s は、それぞれ、総合満足度、経済性、利便性、快適性、交流・余暇、安全・安心の各満足度を示す。 $x_{e,k}$ 、 $x_{c,k}$ 、 $x_{f,k}$ 、 $x_{m,k}$ は、それぞれ、経済性、利便性、快適性、交流・余暇の各満足度を説明する k 番目の指標を示す。 z_j は個人属性の j 番目の指標、 α 、 β 、 γ はパラメータである。

利便性満足度の説明指標として日常施設と非日常施設までの所要時間を挙げたが、日常施設、非日常施設は個人によって異なる。そこで、本研究では週1回以上の頻度で訪れる施設を日常施設、週1回未満かつ年1回以上の頻度で訪れる施設を非日常施設と定義し、(6)、(7)式で平均所要時間を算出し、説明変数の候補とする。

$$T1 = \frac{\sum_{q=1}^4 \left(D_q \sum_{s=1}^{n_q} T_q^s \right)}{\sum_{q=1}^4 D_q n_q} \quad (6) \quad T2 = \frac{\sum_{q=5}^9 \left(D_q \sum_{s=1}^{n_q} T_q^s \right)}{\sum_{q=5}^9 D_q n_q} \quad (7)$$

ここで、 $T1$ 、 $T2$ は日常施設、非日常施設への平均所要時間である。 q は頻度(1:毎日、2:週に4~5回、3:週に2~3回、4:週1回程度、5:月に2~3回、6:月1回程度、7:2~3ヶ月に1回程度、8:年に2~3回、9:年1回程度)である。また、 s は訪れる施設、 n_q は頻度 q で訪れる施設の数、 T_q^s は頻度 q で訪れる施設 s までの所要時間、 D_q は頻度 q の年間訪問回数である。

3. 実証分析

3.1 対象地区

千葉県船橋市は、千葉県北西部に位置し、2010年の人口が約60万人、人口密度は約7,000(人/㎢)の中核市である(国勢調査)。本研究では、郊外団地(分譲)として船橋市における芝山団地(分譲)、郊外団地(賃貸)として芝山団地(賃貸)、郊外戸建て地区として金杉4-8丁目を対象地区とする。

芝山団地は、1977年に旧日本住宅公団により建設された。現在、分譲住宅(595戸)と独立行政法人都市再生機構が管理する賃貸住宅(1,644戸)で構成される。芝山団地から最寄りの食品スーパーまでは徒歩約10分、最寄り駅の東葉高速鉄道飯山満駅まで徒歩で約10分、JR船橋駅までバスで約30分(運行頻度は朝夕と日中2本/時程度)である。金杉4-8丁目の世帯数は、2014年現在、2,956世帯である(船橋市HP)。最寄り駅は新京成電鉄新京成線滝不動駅・高根公団駅である。その他、千葉県道8号船橋我孫子線(船取県道)が町内を走る。

3.2 アンケート調査

対象地区における住民の経済性、利便性、快適性、交流・余暇の各視点からの満足度の実態を把握するとともに、生活満足度評価モデルのパラメータ推定用データの収集を目的として、アンケート調査を実施する。

表-2に、アンケート調査の概要を示す。

表-2 アンケート調査の概要

分類	対象地区	実施時期	配布/回収方式	配布数	回収数	回収率
郊外団地(分譲)	芝山団地(分譲)	2013年10月16日	管理組合経由	492	186	37.8%
郊外団地(賃貸)	芝山団地(賃貸)	2013年11月20日	ポストイン/郵送	1,374	217	15.8%
郊外戸建て地区	金杉4-8丁目	2013年11月15日	ポストイン/郵送	1,827	389	21.3%

表-3に、総合満足度、経済性、利便性、快適性、交流・余暇、安全・安心に対する満足度の回答結果を示す。

表-3 各満足度の回答結果

満足度	対象地区	単位: %					
		良い	まあ良い	普通	やや悪い	悪い	不明
総合	芝山団地・分譲	24.3	23.1	58.1	8.1	1.6	4.8
	芝山団地・賃貸	5.2	31.1	40.1	14.2	3.3	4.8
	金杉・戸建	5.9	35.0	46.8	7.7	1.0	3.6
経済性	芝山団地・分譲	11.6	11.8	60.2	19.4	3.2	3.8
	芝山団地・賃貸	2.4	13.2	42.0	22.6	12.7	9.4
	金杉・戸建	4.1	19.5	56.6	11.8	2.8	5.1
利便性	芝山団地・分譲	17.2	32.8	37.1	5.9	2.2	4.8
	芝山団地・賃貸	23.6	32.5	28.3	9.0	2.8	6.1
	金杉・戸建	13.4	33.2	33.7	11.3	4.1	4.4
快適性	芝山団地・分譲	19.4	37.1	32.3	5.4	1.6	4.3
	芝山団地・賃貸	20.8	32.5	33.0	7.5	1.9	6.6
	金杉・戸建	11.3	38.0	36.8	7.7	2.1	4.1
交流・余暇	芝山団地・分譲	13.4	26.3	45.2	8.1	1.1	5.9
	芝山団地・賃貸	16.0	26.4	35.4	15.1	2.8	6.6
	金杉・戸建	16.7	32.1	41.1	5.7	0.3	4.1
安全・安心	芝山団地・分譲	5.9	26.9	50.0	9.7	1.6	5.9
	芝山団地・賃貸	8.5	28.8	47.6	7.1	2.4	8.0
	金杉・戸建	9.0	31.6	48.1	6.4	1.0	3.9

3.3 モデルのパラメータ推定

アンケート調査による個票データを用い、最小二乗法(OLS)により(1)~(5)式の推定を行う。推定は、まず回答のあった全サンプルを用い、符号条件を考慮して片側

20%水準で有意な変数のみを説明変数として行う。次に、全サンプルによる推定結果を用いて現況再現性の確認を行い、推計値と実績値の誤差率が10%、20%、30%未満のサンプルによる再推定(ロバスト推定)を行う。誤差率20%未満のサンプルによる推定結果を表-4に示す。

総合満足度は、団地(分譲)、団地(賃貸)、戸建て地区とともに、経済性、快適性、交流・余暇、安全・安心の各満足度が20%水準で有意に推定された。これらに加え、団地(賃貸)、戸建て地区では利便性満足度も20%水準で有意となった。

利便性満足度は、団地(賃貸)では、「平均所要時間(日常施設)(非日常施設)」が20%水準で有意、戸建て地区では、「自動車保有(調整不要)」、「鉄道駅までの所要時間」、「バス停までの所要時間」が20%水準で有意となった。

交流・余暇満足度は、団地(分譲)、団地(賃貸)、戸建て地区とともに、「友人・知人との対面での交流頻度」が20%水準で有意に推定された。これらに加え、団地(分譲)および団地(賃貸)では、「家族との交流頻度」、「悩み事の相談相手がいる」、戸建て地区では、「友人・知人とのメール・SNS等を通じた交流の頻度」も20%水準で有意となった。

4. 住民生活満足度を考慮した地域政策

実証分析で明らかになった各満足度の要因に基づき、各地区の住民生活満足度を向上させる地域政策について、先進事例、既存の支援制度等を参考に検討する。なお、経済性、快適性の各満足度については、その要因が個人や世帯によって大きく異なり、地域政策で向上させることは困難と考えられることから、ここでは考慮しない。以下では、利便性満足度、交流・余暇満足度向上のための地域政策を検討する。

4.1 利便性満足度向上のための地域政策

4.1.1 団地(賃貸)

日常施設・非日常施設までの「平均所要時間」を減少させる地域政策として、「団地内商業施設の活性化」、「ダイヤモンドバス」を提案する。

団地内商業施設の活性化については、コミュニティカフェを団地内商業施設に隣接して設け、コミュニティ施設にきた人々が、商店にも立ち寄ることで、間接的に団地内商業施設の活性化に寄与する。さらに、支援制度としては、国による「商店街コミュニティ施設活用事業」(中小企業庁経営支援部商業課)を用いる。

ダイヤモンドバスの具体的な提案は次のとおりとする。運行路線については、船橋市内を「対象地区と最寄り駅」、「対象地区の周辺」の2つのエリアに分け、「対象地区と最寄り駅」を循環する「飯山満駅線」、対象地区と「日常施設・非日常施設」を結ぶ「船橋市内線」の2路線の構成とする。料金については、船橋市内線が350円、飯山満駅線が110円とする。運行時刻については、平日は午

表-4 推定結果(誤差率20%未満のサンプル)

	分譲		賃貸		戸建て	
	定数項	決定係数	定数項	決定係数	定数項	決定係数
総合満足度	経済性満足度	0.4844 (12.20)	-0.0625 (-0.38)	0.4039 (10.63)	0.0710 (0.59)	0.4129 (13.59)
	利便性満足度		0.1506 (3.91)	0.0618 (2.62)	0.0618 (2.62)	0.1908 (6.44)
	快適性満足度	0.3316 (9.49)	0.0869 (1.94)	0.1908 (6.44)	0.1908 (6.44)	0.1908 (6.44)
	交流・余暇満足度	0.1199 (3.54)	0.1956 (6.00)	0.1934 (6.80)	0.1934 (6.80)	0.1476 (4.83)
	安全・安心満足度	0.0578 (1.38)	0.2210 (4.84)	0.1476 (4.83)	0.1476 (4.83)	0.1476 (4.83)
	決定係数	0.7494	0.7757	0.7348	0.7348	0.7348
	サンプル数	153	146	313	313	313
経済性満足度	定数項	2.9787 (120.05)	3.0007 (55.93)	2.7031 (16.56)	2.7031 (16.56)	2.7031 (16.56)
	性別				0.0057 (2.52)	0.0057 (2.52)
	年齢			-0.0182 (-5.21)		
	居住年数					
	家族人数					
	日常生活支出額					
	教養・娯楽・交際支出額					
不動産関連支出額						
耐久消費財支出額	0.0038 (5.33)		0.0013 (3.03)		0.0013 (3.03)	
旅行支出額			0.0128 (8.44)		0.0128 (8.44)	
決定係数	0.3671	0.5425	0.0566	0.0566	0.0566	
サンプル数	51	69	222	222	222	
利便性満足度	定数項		-5.3189 (25.56)	3.0074 (12.82)	3.0074 (12.82)	3.0074 (12.82)
	性別		-0.4424 (-4.43)			
	年齢		-0.0128 (-3.90)		0.0191 (4.76)	0.0191 (4.76)
	居住年数		0.0061 (1.53)		-0.0093 (-3.02)	-0.0093 (-3.02)
	家族人数					
	平均所要時間(日常施設)			-0.0130 (-4.36)		
	平均所要時間(非日常施設)			-0.0107 (-2.93)		
自動車保有(自分で運転)				0.4089 (4.73)	0.4089 (4.73)	
自動車保有(調整不要)				-0.0266 (-5.30)	-0.0266 (-5.30)	
鉄道駅までの所要時間				-0.0433 (-3.21)	-0.0433 (-3.21)	
バス停までの所要時間						
決定係数		0.5152	0.3438	0.3438	0.3438	
サンプル数		92	141	141	141	
快適性満足度	定数項	0.7677 (3.98)	1.7113 (4.98)	0.6238 (3.74)	0.6238 (3.74)	0.6238 (3.74)
	性別		-0.2159 (-2.34)			
	年齢		-0.0099 (-3.03)			
	居住年数		0.0061 (1.52)			
	家族人数	-0.0530 (-3.67)		0.0550 (2.30)		0.0550 (2.30)
	住居からの眺望	0.2330 (6.19)		0.1197 (3.37)		0.1197 (3.37)
	住居の日当たりや風通し		0.2929 (5.23)			
住居の静けさ						
空気のきれいさ	0.2641 (5.47)					
飲料水道水のきれいさ、臭いなど						
住居周辺の公園や緑地	0.3559 (7.52)		0.3106 (7.34)		0.3034 (9.05)	
住居周辺の水辺						
住居の延べ床面積		0.0099 (3.42)				
決定係数	0.7682	0.6223	0.6839	0.6839	0.6839	
サンプル数	116	97	175	175	175	
交流・余暇満足度	定数項	2.8102 (19.19)	2.3868 (25.20)	2.2979 (10.71)	2.2979 (10.71)	2.2979 (10.71)
	性別			-0.1123 (-1.68)		-0.1123 (-1.68)
	年齢	-0.6068 (-5.49)		0.0074 (2.34)		0.0074 (2.34)
	居住年数			0.0047 (1.66)		0.0047 (1.66)
	家族人数			-0.2008 (-4.59)		0.1353 (5.38)
	友人知人との対面での交流(立ち話 自宅訪問 外出等)の頻度	0.0017 (3.20)		0.0037 (11.49)		0.0011 (3.57)
	友人知人とのメール・SNS等を通じた交流の頻度					0.0031 (10.88)
家族との交流(対面・メール・SNS等)の頻度	0.0016 (4.47)		0.0024 (8.38)			
悩み事の相談相手がいる	0.6541 (4.99)		1.0748 (12.48)			
悩み事がない						
好きなことに費やす時間(平日)						
好きなことに費やす時間(休日)						
決定係数	0.5831	0.8245	0.6052	0.6052	0.6052	
サンプル数	76	104	185	185	185	

(注) ()内はt値。

前8時~午後4時、土日・祝祭日・年末年始は運休とする。車両については、4台の車両(ワゴン2台、軽自動車2台)で運行する。多数乗車に対してはワゴンで、細道の出入りに対しては軽自動車に対応する。予約センターについては、2台のオペレータ端末で予約の受付や配車を行う。

4.1.2 戸建て地区

鉄道駅・バス停までの所要時間を減少させる等の地域政策として、「ダイヤモンドバス」を提案する。より具体的には、運行路線を除き団地(賃貸)と同様である。運行路線については、「対象地区と最寄り駅」を循環する「滝不

動・高根公団線」、対象地区と「日常施設・非日常施設」を結ぶ「船橋市内線」の2路線の構成とする。

4.1.3 各地区での提案内容による感度分析

実証分析のモデルを用いて、地域政策が各地区で利便性満足度、総合満足度をどの程度向上させるのかについて感度分析を行った結果、団地(賃貸)では、利便性満足度の平均値が3.99から4.33、総合満足度の平均値が3.46から3.55となった。戸建て地区では、利便性満足度の平均値が3.57から4.06、総合満足度の平均値が3.50から3.54となった。

4.2 交流・余暇満足度向上のための地域政策

4.2.1 団地(分譲)

「友人・知人との対面での交流頻度」、「悩み事の相談相手がいる」を向上させる地域政策として、「コミュニティカフェの設置」を提案する。

設置主体は、地区を対象とする地域政策であることから自治体とする。運営は基本的にNPO、個人、任意団体に委託する。運営目的は、「保健福祉(協働・相談の場)」とする。立地は、芝山団地(分譲)の団地内商店街に隣接させることとする。規模(延床面積)は、先進事例に倣い10~20坪とし、飲食スペース、自由利用空間、談話コーナー、コピーやFAX(協働や相談の場での広告用)、パソコン(協働や相談の場で利用)、相談コーナーを設置する。提供するサービスは、主に、飲食物の提供、協働・相談の場の提供、各種教室・講座(保健福祉における協働、相談の意義と実践など)の開催とする。

4.2.2 団地(賃貸)

「友人・知人との対面での交流頻度」、「悩み事の相談相手がいる」を向上させる地域政策として、「コミュニティカフェの設置」を提案する。

より具体的には、団地(分譲)の場合と同様である。

4.2.3 戸建て地区

「友人・知人との対面での交流頻度」、「友人・知人とのメール・SNS等を通じた交流頻度」を向上させる地域政策として、「コミュニティカフェの設置」を提案する。

より具体的には、立地を除き団地(分譲)の場合と同様である。立地は、金杉4-8丁目にある小学校・中学校付近の住宅街とする。

4.2.4 各地区での提案内容による感度分析

実証分析のモデルを用いて、地域政策が各地区で交流・余暇満足度、総合満足度をどの程度向上させるのかについて感度分析を行った結果、団地(分譲)では、交流・余暇満足度の平均値が3.49から3.89、総合満足度の平均値が3.27から3.33となった。団地(賃貸)では、交流・余暇満足度の平均値が3.44から3.70、総合満足度の平

均値が3.46から3.50となった。戸建て地区では、交流・余暇満足度の平均値が3.70から3.98、総合満足度の平均値が3.50から3.57となった。

5. 結論と今後の課題

5.1 結論

本研究では、郊外団地(分譲、賃貸)と郊外戸建ての諸課題を解決するための地域政策が検討可能な生活満足度評価モデルを構築し、千葉県船橋市を対象としたアンケート調査データを用いて、パラメータ推定を行った。

推定の結果、利便性満足度については、団地(賃貸)では「平均所要時間(日常施設)(非日常施設)」、戸建て地区では「自動車保有(調整不要)」、「鉄道駅までの所要時間」、「バス停までの所要時間」が生活満足度を向上させる可能性が高いことが示された。また、交流・余暇満足度については、団地(分譲)(賃貸)、戸建て地区ともに「友人・知人との対面での交流の頻度」、さらに団地(分譲)(賃貸)では「家族との交流の頻度」、「悩み事の相談相手がいる」、戸建て地区では「友人・知人とのメール・SNS等を通じた交流の頻度」が生活満足度を向上させる可能性が高いことが示された。

以上を踏まえ、各対象地区における生活満足度を向上させる地域政策を先進事例、既存の支援制度等を参考に検討した。利便性満足度向上のための地域政策として、賃貸地区では「団地内商業施設の活性化」、「ダイヤモンドバス」、戸建て地区では「ダイヤモンドバス」を提案した。交流・余暇満足度向上のための地域政策として、分譲・賃貸・戸建て地区ともに「コミュニティカフェの設置」を提案した。さらに、実証分析のモデルを用いて、利便性満足度と交流・余暇満足度向上のための地域政策が、各地区で各満足度、総合満足度をどの程度向上させるのかについて、感度分析を行った。その結果、最も優先すべき地域政策は、団地(分譲)と戸建て地区ではコミュニティカフェの設置、団地(賃貸)ではダイヤモンドバスであることが明らかになった。

5.2 今後の課題

今後の課題として、各対象地区で提案する地域政策(団地内商業施設の活性化、ダイヤモンドバス、コミュニティカフェの新設)を行う際、新たなITテクノロジー(スマートフォン等)を活用すること等が挙げられる。

参考文献

- 1) 佐々木公明・徳永幸之：地域交通と住民の幸福 ―「アマルティア・センの潜在能力」を反映した地域交通システムの評価―、運輸政策研究、Vol. 14 No. 4 Winter、pp. 2-12、2010
- 2) 北川夏樹・鈴木春菜・羽鳥剛史・藤井聡：共同体からの疎外が主観的幸福感に及ぼす影響に関する研究、土木計画学研究・講演集(CD-ROM)、Vol. 42、93、2010